



かわにし町

第84号

2006. 1・15

# 議会だより



平成17年12月定例会

## 働く人 — 『ご神徳の弥栄えあれ！』

特集 「少子高齢化社会」に自治体はなにをすべきか(1) ..... P2~3

町政をただす 財政見通しと地域再生は ..... P4

第4次総合計画の基本構想できる ..... P6

町民の声 地域農業の創造を ..... P11

◇ホームページアドレス <http://www.town.kawanishi.yamagata.jp>

◇平成18年1月 ◇発行 山形県川西町議会 ◇事務局 〒999-0193 川西町大字上小松1,567 幕 0238(42)2111

「少子高齢化社会」に自治体はなにをすべきか(1)

# 少子化↓人口減少↓生活水準の低下↓

## 産業の衰退で弱小国に転落の予測も

特集  
川西・未来へ

新年の多くの全国紙が人口問題を特集している。昨年、従来の予測を二年も前倒して我が国の人口が一万九千人の減となったからだ。一億二七〇万が二万弱減つたからと言つてどうだといふのかとタカをくくつてはいけない。日本の少子高齢化は世界に例をみない速度で進行しており、「川西の未来」も、これによる社会の大変動の波を受けない訳にはいかない。85号(4/15発行)と連続で、「少子高齢化に対して自治体のすべきこと」の視点で特集する。



この児たちの将来が光かがやくものであるように

少子化が地域のレベルで人口減少を引き起こしている。下の表(1)は、わが町の乳幼児人口の推移を示したものであるが、昨年四月一日までの一年間に生まれた赤ちゃんはわずかに一三一人であった。筆者は昭和二六年、戦後のベビーブームも一段落という時期の出生だが、中郡小学校の同級生は確か似たような数字だったと記憶している。それが今や町全体の数字だ。大字単位の出生、人口推移も公表されていて、

地域ごとの出生、人口減少にも著しいアンバランスがあり、その理由について、さまざまにとりざたされてはいるが確たる原因というべきものはわかっていない。世帯あたりの所得が比較的高い地域での出生数が極端に少なかったりするからだ。いづれにもせよ、このままでは、教育、防災、医療などの基本的サービスも維持できず、生活水準の低下が避けられない事態となってくる。

### (1) 川西町の乳幼児人口の推移

【H17. 6. 15現在】

年齢別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
学区別	H16. 4. 2~ H17. 4. 1生	H15. 4. 2~ H16. 4. 1生	H14. 4. 2~ H15. 4. 1生	H13. 4. 2~ H14. 4. 1生	H12. 4. 2~ H13. 4. 1生	H11. 4. 2~ H12. 4. 1生
小松	43	49	47	59	59	58
大塚	16	19	21	17	30	20
犬川	17	11	15	11	26	10
中郡	16	14	17	12	17	25
高山	3	6	5	2	6	1
玉庭	11	11	5	6	5	4
東沢	6	2	7	8	6	6
吉島	19	11	21	26	22	22
合計	131	123	138	141	171	146



## 「教育」——制度改革と学区再編で

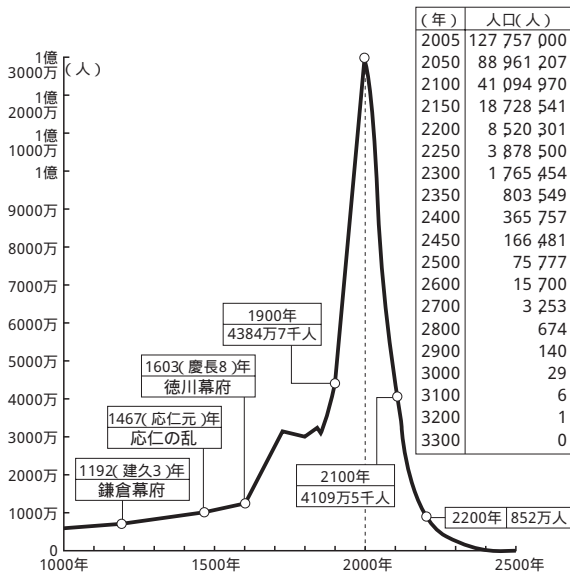
教育でいえば、後期幼児教育の二年間を義務化して、義務教育をフランスと同じ十一年間とする案が急浮上し、どうやら平成二十年には具体化しそうな話もあるが、それに時期を同じくして、本町でも、学区の再編と幼稚園と保育所を一元化した総合施設への展開が日

## 「防災」——若者の義務的加入？

消防事業などの防災、そして医療や介護についても同じようなことが起こる。消防事業の一部事務組合による広域化も、近隣市町のいずれもが、要員の一定年退職などの問題を抱えており、避けられそうにない。その際、通報態勢の一元化、機動性の向上といった技術的な課題とともに、予消防防という観点から、消防団の組織強化が必須となると考えられている。

### (2) 日本の人口の推移

(朝日新聞 18. 1. 3)



それだけでなく就業の多様化や、若者そのものの減少で団員の確保に苦しむ消防団を強化拡充するのはけつして簡単なことではない。国民保護計画とのからみもあり、なんらかの義務化が必要だとする論者も少なくない。義務化というのは、つまり原則強制加入ということだから、何かと物議を起しそうだが、人口減少は山を越すと猛スピードで転げ落ちると予測されており、**社会制度の維持を前提とすれば、**是も非もないとなってしまうかもしれない。

## 高齢者医療制度の独立

我が国の人口ピラミッドは、この減少の過程でマツタケ型になるとされているが、この時最も課題となるのは高齢者医療だ。今年の国会で議論される医療制度改革では、平成二十年度から七五歳以上を対象に独立した医療保険制度をつくり、介護保険と同様に年金から保険料を天引きする案が審議される。この会計に

## 労働人口の減少で国が衰退

しかし、人口減社会の予測で最も衝撃的なのは経済の世界だ。最近何かと関係がしっくりしない隣国の中国は、昨年六月に外貨準備高が日本を上回り、「世界一の金持ち」になったと報道されたが、GDP(国内総生産)でも平成二八年には日本を追い越し、そしてその二五年後には米国をも抜く。さらに二〇五〇年の時点でいえば日本のGDPは中国やインドの一割台となってしまいうらしい。

定年の引き上げや、再

対する国や自治体の負担割合がどの程度かなどの詳細はこれからの議論の推移を待つしかないけれど、国保や社会保険などの若者の健康保険会計から完全に分離することになれば、保険料や自己負担額が増えるのは必至であるし、高齢者に対する診療抑制などが生じないとも限らない。

雇用などで高齢者、女性の労働市場への参入をはかり、ニート対策などの就業支援策に国も自治体もやつきになっていくが、これが効を奏したとしても、労働人口の減少はいかんともしがたいということか。

今号では少子高齢化Ⅱ人口減社会の負の部分についての特集となった。あまりめでたくない初夢であるが、次号では、少子化対策について、可能性を探ることとしたい。

# 町政をただす

## 財政見通しと地域再生は

### 町長 集中改革プランを積極的に進める



高橋 照夫 議員

適正化など数値目標を掲げた集中改革プランに取り組む。特に定員管理適正化については、国の目標四・六%を大きく上回る五年間で十%以上の削減目標を掲げ、人件費を大幅に圧縮していく。

### 地域再生に向けたまちづくりは

高橋 財政難から各自治体においては、住民組織と連携しながら地域に合った協働のまちづくりが実践されている。「協働」は住民側の自発的行動、そして住民と行政の相互理解や信頼感が必須

要件であり、「共に一緒に汗を流し地域を再生する」と言う共通認識が最重要。「協働のまちづくり」を充実発展させるうえで具体的な施策は。

町長 「川西町まちづくり基本条例」の理念に基づき、町民と役場との相互理解と信頼関係を深め、これまでの構造を改革し

高橋 国、地方財政の三位一体改革が加速的に改革推進されている現状で、本町は地方交付税依存度が半分以上の財政運営の状況から、今後の財政基盤確立の見通しと平成十八年度の財政見通しは。

町長 税収の伸びが期待できない中、地方交付税の減額や財政調整基金が本年度末には底をつくような状況にある。徹底した歳入確保を図るとともに、より一層の歳出削減

に努める。今年度をスタートする今後五年間の新たな目標を盛り込んだ「集中改革プラン」を着実に実行し、収支均衡の平成十八年度予算編成に取り組んでいく。

高橋 自主財源が著しく乏しい財政状況から、平成十九年度以降の財政基盤確立の見通しは。

町長 産業振興や所得向上により自主財源の拡大が図られるよう努力し、事務事業の見直し、民間委託の推進、定員管理の



市街地の排雪は近所同士の話し合いで

自主自律のまちづくりへ転換しながら、町民自らが主体的に考え、行動し、地域の課題は地域で解決する活動を促進していくための、地域自立支援制度の創設や地域担当職員の配置など、地域づくりに対し積極的に支援していく。役場と町民が協働し、行動することにより町全体としてのブランド力を高めていきたい。

# 条 例

# 人 事

## 指定管理者の指定決まる



キメ細やかなサービスで誘客の拡大へ

二〇〇四年に地方自治法の一部改正による法律が成立、公布された。この中で導入された制度で地方自治体が所管する公の施設について、管理・運営を民間事業会社を含む法人やその他の団体に委託することができる制度。指定管理者制度はその有力な方策として期待されているもので、公の施設の管理、運営に民間等のノウハウを導入することで効率化を目指す。

三十一日までの三カ年。指定管理者導入により今後、町民総合体育館等施設運営に係わる労務システムなどの抜本的な改革が望まれる。また、「まどか」については、長期債務が残っており、解消できるまで町からの支援が必要である。将来、独立採算を目指す運営形態にすべきであるなどの意見が出された。

全員賛成で可決

### 川西町過疎地域自立促進計画の一部変更について

高品質米生産促進事業（色彩選別設備一式）について、過疎地域自立促進計画に位置付け、自立促進の対策を講ずるため計画の一部を変更するもの。

全員賛成

# 請 願

## 継 続

◎産業廃棄物処理施設設置等に関する請願書。

△請願者△

川西町大字玉庭七八五・一 玉庭地区自治会長

会長 伊藤勘一他六名  
審査未了のため

人権擁護委員の選任に同意  
平成十八年度三月三十一日で任期満了になることに伴うもので再任することに全会一致で同意。

住 所 島貫 明（再任）  
川西町大字上小松一五

生年月日 〇七

昭和十八年十月五日

『まちづくりの構造改革・  
まちづくりブランドの獲得』

人がかがやきダリヤと文化が咲き誇るまち

(住むことが誇りに思える川西の創造、  
人口減少の歯止め、交流人口の拡大)

地域再生

『発見』・『協働』・『実現』

産業を創造しゆたかで元気なまちをつくる  
(川西ブランドの創造、産業の振興)

みんなで支え合い  
安心して暮らせるまちをつくる  
(子育て、元気づくり、危機管理)

住み良い環境を創り  
次世代につなげるまちをつくる  
(土地利用、生活基盤、環境保全)

人と地域が共にかがやくまちをつくる  
(人づくり、地域づくり、学習、男女共同参画社会)

ダリヤのまちづくり

文化のまちづくり

『まちの宝(資源)の磨き』

# 4次総基本構想 を認定

## 協働のまちづくりで地域再生を！

### 今後10年間の方向性と指針決まる

第四次総合計画のキーワードは「協働」の一語に尽きる。財政状況が大変厳しく、今後もその好転が期待できないことがその背景であることは否定できない。  
住民のニーズの多様化によって、自治体の果た

す役割は拡大の一途をたどってきたが、今日のサービス水準を維持するのが困難であることは言をまたない。  
「協働」は、町行政が行うこと、住民が自らの発想で自ら行うこと、そして、行政と住民(地域

自治組織やNPOなどの団体もしくは個人)が共に知恵と力を出し合って行うこととの区分として発想された。しかし、この四次総にあつては、あらゆる分野における共働が、住民の主体性と創造性を引き出し、それこそが町づくりの最終理念である「人がかがやきダリヤ

『まちづくり委員会』『明日づくり懇談会』の答申を受け、第4次川西町総合計画の基本構想案が提案された。この基本構想は平成18年度から平成27年度までの10年間のまちづくりの基本的な方向性を示し、総合的・計画的に進めていくための指針となるもの。同時に施策の体系、展開の考え方(上の図)、柱と方向性についても明らかにされ、全員協議会、総務常任委員会での慎重かつ活発な討議を経て、最終日に可決認定された。

と文化」に至る基本としている。右上の図がそのイメージである。言いかえれば、結果や成果をめざすのではなく、共働という経過をこそ「川西らしさのブランド」としようという発想である。  
議員全員協議会、総務常任委員会の論議の中心も、この「協働」を諸施策の中で、方向性としてどのように位置づけ、盛りこむかであった。  
十二月十五日の総務常任委員会は、傍聴する他委員会所属の議員も、意見陳述や質問ができるとの特別ルールの下、「今後はやらないし、やりたくともできないサービスもあることを総合計画に明示すべきだ」などの活発な陳述が展開された。  
十二月二十日には、町長の出席を求め、川西診療所の今後のあり方、消防の広域連携、市町村合併とこの総合計画の関係についてなどで直接論議を交わし、集中改革プランとの整合性をはかることなどの意見を付し、ようやく可決すべきものとなった。

# よろしくお願ひします！

## 議会広報モニター(第4期)のみなさん



議会広報モニター第三期の皆さんが、三月末日任期満了となったのを受け、この度第四期目の七人の方を新モニターとして委嘱することとなった。任期は平成十九年三月迄の二年間。さっそく十二月議会の傍聴からスタートした。

### 《新しい議会広報モニターの皆さん》

渡部 秀一(川西町上小松) 高橋 通夫(川西町朴沢)  
奥山 雅広(川西町大塚) 金子いち子(川西町上奥田)  
横山のぶ子(川西町小松) 今野 憲修(川西町洲島)  
鈴木 幸子(川西町堀金)

#### 議会広報モニターから一言(1)



#### 議会傍聴もしてみました

洲島  
今野 憲修

今まで、町報かわにしと議会だよりは、毎回同じく配布されるものだと思われていました。議会だよりは、議会開催の翌月発行だと分かったのは、広報モニターになった今年からです。認識不足でした。モニターとしての仕事内容は、議会だよりの内容編集スタイル、レイアウト等と言われても意見、感想が出てこないのが素直な気持ちです。関心をもって見ていないからです。そこで、一度議会傍聴をしてみようと思い、十二月議会を傍聴してみました。正直、分らないというのが第一印象です。それをまとめて発行されるのが議会だより

です。それもいろいろと議会用語らしきものがけっこう見受けられ理解しがたい所があります。例えば第83号9ページ下段、ランニングコスト、逆ザヤ分等々である。それから、活字が多い様な気がします。グラフや絵(まんが)等で表現できれば、読者には刺激的に伝える事が出来ると思います。それからカラー印刷、これは予算オーバーになるかもしれない部分とか、学校のグラフを書いた部分とか、学校・地域・職場訪問などの写真は、カラーの方が目に焼き付くと思います。その分ページ数を減らしても良いと思います。

#### 表紙の写真



#### 働く人

大字上小松鎮座諏訪神社は本町きつての名社であり、古くから小松町衆のみならず、近在の村人たちから「お諏訪さま」と尊ばれ、信仰されてきた。

今年は何年にもない大雪で、社殿も杉林もスッポリと雪の中、厳寒の中に神々しさも増すようである。

元朝参りの善男善女の願いは、家内安全、五穀豊穣、商売繁盛：とさまざま、年の始めから、神さまは大忙しでいらっしやる。

神を人と同列に扱うのは不遜の極みだが、ご神徳にすがりたくなる時世ではある。

# 委員会 レポート

## 総務常任委員会

### 学校統廃合の論議を急げ

平成十七年十二月五日、本町の学校問題に関する現状と課題について所管事務調査を行った。

川西町集中改革プランでは、少子化に伴う小中学校現行学区の見直しと学校統廃合、学校調理施設の統廃合と民営化、校舎の利用による地域の活性化と地域間交流の促進等が検討課題にある。それらの点から町立第二中学校及び町立高山小学校の現地調査を行った。学



今はパソコンも必修教科

校基本調査による町の児童・生徒数は、平成八年度小学校一、四二四名、中学校八二八名、平成十七年度小学校九二五名、中学校五一三名であり、この十年間を比較した場合小学校約五百人の減、中学校三百人以上の減となっている。今後とも児童・生徒の減少は否めない状況にある。このため、これまでの学年普通教室は、「いきいきルーム」や「さらさらルーム」、「T・T教室」等に、複式学級の場合は学年ごとに教えるための教室や数学・英語教科の学力向上のための教室にそれぞれ使用しており多様な学習形態を工夫し授業に取り組んでいた。調理室については、今年度三名の臨時調理士を削減しているが、円滑に業務運営をしている状況にある。学校施設の体育館は地域の方々に開放しているが、社会体育としての利活用

## 厚生常任委員会

### 畜産公害に監視の強化を

平成十七年十月二十五日、本町に進出した大型畜産事業の内、ビックファーム室岡と山田鶏卵養鶏場の二ヶ所について、環境調査を行った。

昭和六十三年に操業を開始したビックファーム室岡は、現在およそ五千頭の豚を飼育している。このため山形県は、水質汚濁防止法による特定施設に指定。月一回、定期的立ち入り調査などを行っている。

委員会は施設内に入り、社長に現状など説明を受けると共に、糞も考えていくべきである。本町では学校教育のあり方に関する協議会での検討結果を受け、基本計画を平成十八年三月まで策定する考えである。



公害対策の説明を聞く

尿処理状況を詳しく見て回った。処理工程の内、大型浄化槽は国の補助事業を使って総額七千五百万円で完成。水は肉眼で見える限り問題はないよう、山口沢川へ放流されていた。

また糞処理は熱拡散し、堆肥生産施設に保管されていたが、悪臭については、町が行政指導を行う。十七年度に大舟地内沢入に進出した山田鶏卵養鶏場は、広さ三十五畝、三棟の鶏舎に五万羽を飼育する計画。近代的なべ

ルトコンベア式操業とのこと。このところ流行した鶏インフルエンザの影響で一行は敷地内に立ち入ることが出来ず、仮正門前で経営者側の説明を受けた。

鶏卵処理場や、堆肥置き場にも注意を払っているとのこと。この度の環境調査では現場からの情報収集で終わったが、今後も県や町当局、それに経営者とのコンセンサスを深める必要があることを痛感した。



## 産業建設常任委員会

### 住民自らの克雪活動実行委員会を組織

〓 福島県西会津町 〓

十一月十五日、福島県西会津町を訪問し、降雪対策における先進地視察調査（住民と共同の雪処理対策）を行った。同町の通常の路線等の除雪は本町との違いはあまりないものの、町中心部の流雪溝の維持管理や除排雪など住民自らが克雪活動実行委員会を組織し、実際に活動しており、また、大型除雪機の入れない狭い道路などは、各地区実行委員会に町の小型除雪機械が貸与され活動されていた。住民による克雪活動実行委員会の組織化に至る経緯については、補助事業により流雪溝が整備されていたことから行政側から関係町内になんども足を運び、かつ町内会役員と一緒に先進自治体を訪問し住民自らの活動の必要性を理解してもらおう取り組みの成果である。



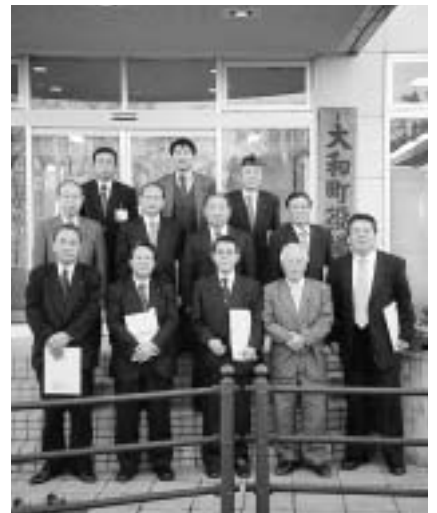
西会津町役場前にて

除排雪については、従来よりすべて行政が行うものとの認識が行政・住民双方ともに根強く、一方、協働の町づくりを目指す本町にとっては、この件でも今後どのような展開、展望できるのか、緊急の課題として、その実践のためにも極めて興

味深く、とくに住民参加の手立てなどについて学んだ。いかなる各種事業を行うにも行政の先見性と熱心さが住民を動かす大きな要因であることを痛感させられた視察調査であった。

## 議会運営委員会

### 行政と議会の緊張関係を



大和町役場前にて

議会運営に関する事項をテーマに十二月一日、二日先進地の所管事務調査として、宮城県大和町議会を訪ねた。大和町は昭和五十一年東北自動車道大和インターチェンジ開通後、内外の優良企業の進出により先端技術産業の基地として農業主産業から農工併進の町として発展している。

議会運営については、折々に改正、変更を重ねてきているが、現在のよくな変革期にあつては行政、議会共に斬新な取り組みや情報の確保に努め

対応する必要がある、今回はそれらと併せて、わが議会運営の検証も含めての視察となった。大和町の議会運営も、大筋で本町議会と同様であるが、議会運営委員会は、三常任委員長が属さない会派

から三名の代表で構成し、正副議長が参画している。一般質問の取り扱いなどの違いもあり、三月定例議会の一般質問は町長の施政方針のあとに会期中に通告により行うなど、本町議会においても検討すべき課題があると感じた。特に議会運営委員会構成メンバーに会派代表が入ることで合理的運営が行われる場合があると思われた。会派は二名以上とするが、政策が異なり一人で活動するときは、一名会派も認める。政務調査費は会派に支給される。

行政と議会は適度な緊張関係があつて発展に繋がるものと再認識をした視察であった。

### 今後の活動

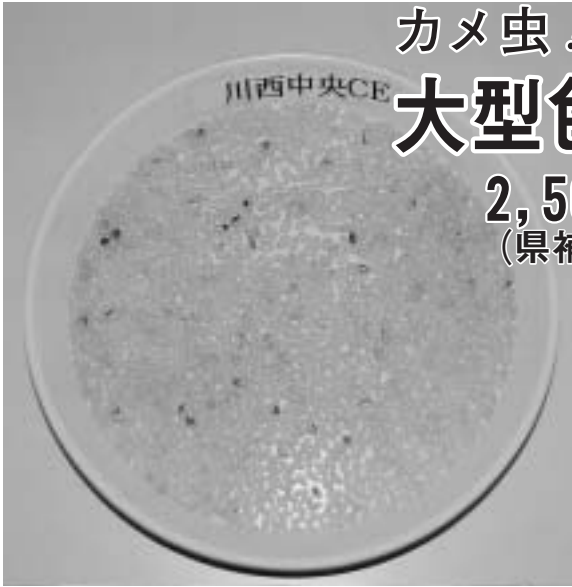
- 総務常任委員会
  - 教育委員との懇談会
  - 環境基本計画及び男女共同参画計画の調査
- 厚生常任委員会
  - 本町における医療体制の実状と今後の方針について
  - リサイクル事業進出に対する対応について
- 産業建設常任委員会
  - 商工会役員との懇談会
  - 除雪状況の調査
- 議会運営委員会
  - 次期議会（定例会までの間に開かれる臨時会を含む）の会期日程等の議会運営に関する事項及び議長との諮問に関する事項

補 正

カメ虫!

# 大型色彩選別機導入

2,500万円プラス 830万円  
(県補助金) (町債)



カメ虫被害米状況

## 一般会計

歳入歳出それぞれに九七〇九万六千円を追加し、総額八三億四〇四五万八千円とするもの。  
歳出の主なものは、カメ虫等による被害のリスク回避、農家所得確保を図るため大型色彩選別機

導入支援に三三三〇万円、除雪費に一四二〇万円、町有牛貸付管理報償に一〇三四万五千円のそれぞれの増額。  
歳入の主なものは、地方交付税一億二〇三万八千円、色彩選別機導入に係る県補助金二五〇〇万円、財政調整基金繰入金一四〇九万五千円のそれぞれの増額。老人保護措置費国庫負担金二八四一万四千円、当初予算の過大見積りによる置賜広域病院組合過年度返還金二一五三万六千円のそれぞれの減額。  
歳入歳出それぞれに八〇三万二千円を追加し総額を一七億八六〇九万七千円とするもの。  
歳出の主なものは、高額療養費貸付金五〇〇万円の増など。  
歳入の主なものは、高額療養費貸付償還金五〇〇万円、一般会計繰入金二二〇万円の増など。  
全員賛成により可決

## 国保

歳入歳出それぞれに八〇三万二千円を追加し総額を一七億八六〇九万七千円とするもの。  
歳出の主なものは、高額療養費貸付金五〇〇万円の増など。  
歳入の主なものは、高額療養費貸付償還金五〇〇万円、一般会計繰入金二二〇万円の増など。  
全員賛成により可決

## 老人保健

歳入歳出それぞれに五八六万九千円を追加し、総額二億九一四二万一千円とするもの。  
歳出の主なものは、医療給付費五二四〇万円の増など。  
歳入の主なものは、医療費交付金三二四九万九千円、医療費国庫負担金一七四六万七千円の増など。  
全員賛成により可決

## 介護保険

歳入歳出それぞれに一八四万七千円追加し、総額を一三億三五〇四万四千円とするもの。  
歳出の主なものは、高額介護給付の一七〇万円の増など。  
歳入の主なものは、介護給付費準備基金繰入金一七〇万円の増など。  
全員賛成により可決

## 水道

人件費の減額によるもの。  
工事費の減額によるもの。  
全員賛成により可決

## 老人訪問看護

## 下水道

## 中間報告

行政システムの大胆な改革を！  
行政に関する調査特別委員会  
大幅な減数を考えざるを得ない！  
議員定数に関する調査特別委員会

行財政に関する調査特別委員会は、設置期間を十九年四月三十日までとし、改革プログラム六十二項目の進捗状況と課題、十七年主要改革六項目の進捗状況等について調査  
研究を進めている。  
財政事情からくる様々な制約があるのならば、住民がやるべきことをきちんと説明すべきとしている。  
特別委員会では、全議員対象としたアンケート調査を行った。  
減ずる人数については、三名減、四名減が各々八名ずつと集中した。

## 地域農業の 創造を



法人組織で新しい農業へ挑戦

佐々木 一宏

川西町大字上奥田

かけどもかけども降る雪、逢う人逢う人に「この雪には参ったね、参りました」と決まり文句、数十年ぶりの大雪、これも、温暖化の影響による異常気象なのか、いずれにもせよ冬はこれから。あまり荒れないことを祈ります。

さて今年、改革の年であると言われて、農業にとっても、戦後最大の農政改革（地域農業の改革）が動き始めました。新たな食糧・農業・農村基本計画、担い手を核としての集落営農組織づくり等、農業者の一人として後々のことを考えるに重い荷を背負わされるだけなのではと感じることがあります。しかし、担い手が複数いるなら対応は可能です。どうせなら時間をかけてでも農業生産法人を作る考えで進むべきであると思います。私は農事組合法人夢里の構成員として加入出来た

ことに満足しています。

創造を求めて法人化へ

かんとんに農事組合法人夢里の事業内容と経過を紹介します。平成十二年、現在の法人の前身である大豆作業受託組合、夢里生産組合が発足、四年後の平成十六年、各関係機関の方々に支援やご指導を得ながら、構成員九名で設立しました。平成十七年には、一名加入し現在構成員十名で農業受託、賃貸水田での大豆、ソバ、さやまめ（パート十名雇用）それに加え構成員二名の水田など経営一元化に取り組んでいます。経営のシステムができたが、経営の一元化を指したいと考えています。



また、法人組織が地域とどのようにかかわっているのか、いくべきかが今後の課題です。

今、国は大きなふるいに稲作農家をかけようとしています。農家はふるい落とされぬ様自ら手をのばすことが必要です。また、その手を引き寄せるのが集落営農や法人組織であると考えます。出来るなら本町に多くの営農組織や法人が出来るよう期待致します。

# 故郷はありがたき哉

## 還暦の同級会にお呼ばれして

### 東京都・岩田弘子さん

わがまちをよそから見れば...



<いわた ひろこ>

昭和6年川西町洲島生まれ  
昭和29年3月犬川小学校退職  
東京家庭学校  
東京都板橋区役所厚生部保育課  
税理士事務所、現役

#### 五十年目の再会

五十年目の再会という  
浦島太郎のようなお話を  
したいと思います。

昨年六月のある日、電  
話のベルが鳴り受話器の  
向うから聞こえてきたの  
は懐かしい訛の声でした。  
「今年還暦なのよ、それ  
で同級会するんだけど」  
という話です。

犬川小学校で低学年の  
二年間を一緒に過した子  
ども達でした。走馬燈の  
ように駆けめぐる頭の中  
には、子ども達の姿が  
ハッキリと見えました。  
今までも同級会へのお

誘いはいただきましたが、  
諸事情で参加出来ず失礼  
いたしておりました。

還暦と聞いて只々おど  
ろくばかりです。そして  
過ぎてしまった年月はそ  
んなにも長かった事を感  
じました。今度はぜひ参  
加したい、皆様に会いた  
い、すぐ参加する返事を  
いたしました。

五十年といえは半世紀  
小学二年生の時の顔や姿  
がそのままであろう筈も  
なく、実際に会った時、  
何と挨拶するんだらう、  
何を話せばいいんだらう、  
頭の中はそんな心配で  
いっぱいでした。会場に

向かう道すがらもこれか  
ら繰り広げられる再会の  
場を心配しておりました。  
案ずるよりのことばの  
通り会場で待つていてく  
れた皆さんの自己紹介等  
々、懸念はいっぺんに吹  
きとんでにぎやかな会場  
になっておりました。

入学初日、教室から逃  
げだした子、何んど呼ん  
でも返事をしてくれなか  
った子、懐かしさがこみ  
あげ目頭が熱くなりまし  
た。

話しても話しても尽き  
る事なく夜中一時半を過  
ぎました。それでも話は  
続くのです。眠ったら会  
が終わってしまう事が辛  
い位に思われました。本  
当に心和む時を戴いた事  
に感謝いたします。

集まって下さった皆様、  
残念ながら集まれなかつ  
た皆様、どうぞ還暦以後  
の日々を大切に有意義に  
お過ごし下さい。又お会  
い出来るかもしれません。

冥利に尽きるふるさと  
での想い出は、良い人達  
との出会いで始まったも  
の、これからの毎日は今  
までより心ゆたかに、ふ  
るさとを想い元気に過せ  
るような気がします。

#### ふるさとの土に

私は岩田家の墓を洲島  
に建てました。只今は夫  
がひとりでおられますが、  
お墓参りでふるさとに戻  
る日が多くなりました。  
何年か後、私の人生が  
終わった時、ふるさとの土  
に戻ります。

定例会は3、6、9、12月です。くわしくは議会事務局へ  
行ってみませんか

## 議会傍聴

手続きはかんたん。だれでも傍聴できます。

#### 編集のなごり

▼幼い子供が次々と意味  
不明な事件の中で犠牲者  
となっていた。安全大  
国を標榜している我が国  
として無念の一言。▼技  
術・内容で世界的に勝っ  
ている日本の建築技術。  
しかし、一部の心ない建  
築関係者の精神的貧困と  
異常な経済感覚から信頼  
は根底から覆された。ピ  
ルの崩壊、住民の不安は  
募るばかり。日本の社会  
構造、なんかへん。▼本  
町のダリアはどこでも最  
高の姿で咲き誇った。ダ  
リヤ園では、前年より九  
千人増の五万三千人の入  
場者が有り、町の花ダリ  
アの本町産業振興の起爆  
剤的役割は大きい。▼暗  
いニュースの多かった昨  
年の漢字一文字は「愛」。  
今年こそ国中が大きな愛  
につつまれたいと願う。

- 委員長 黒澤 巖  
副委員長 高橋 照夫  
委員 横山 明博  
" 島貫徳石工門  
" 佐藤 興市  
" 高橋 建一